

橋本光憲・前田秀夫編

## 『英文ビジネスレター表現ハンドブック』

(日本経済新聞社・2000年・本体1800円)

国内研究員 長 島 常 光

Eメールも！らくらく書ける「速く短く」が勝負のEビジネス。クイックメール文章作成に必要な1万2000の多彩な文章表現例から最適のフレーズを即座に見つけられる！辞書を引き引き文を作る煩わしさを最小限に抑えた、スーパー便利なハンドブック！

本書の特長はEビジネス時代に対応し、迅速性を重視。探したい文章へクイック・アクセス可能。約1万2千の豊富な文章例。見開いたまま机上に置ける柔軟な造本。

参照しながら即キーボードで打ち込めるよう配慮。以上のような簡潔明瞭にして、かつ的を得ている「帯」の素晴らしいキャッチフレーズに、本屋の店頭で思わず手が伸びてしまい、ちょっとパラパラ斜めに見てみると直ぐ欲しくなり買ってしまった、という処に本書の真の「値打ち」を見出だせると言える。

本書は簡単な日本語（1～2語）から多くの直ぐ使える正確な英文例を用意している。本書のまえがきで筆者は、今日のEメール時代にあって、英文作成の基本目標を次の三点に尽きるだろうとしている。

1. 迅速性 (Speedy, Speediness)
2. 正確性 (Correct, Correctness)
3. 簡潔性 (Brief, Briefness)

上記の目標は、その英文で如何に効果を挙げるかに目的があると思われる。

本書の長所は、その使用の便利性においても、収集された正確かつ豊富な英文例で

十分証明されている。

また本書の使い勝手の良さは、先ず持ち運びにも手軽であることと、例えば、返事の英文文例は55も示されていることから、如何に便利であるかは、本を開けば納得できる。

Eメールを作りながらでも練れた英語力が身につく本である。本書の始めに、レター、ファックス、Eメール等の基本フォームが示されていれば、読者には一層便利だったろう。

編者の橋本光憲氏は30年以上銀行マンとして活躍の後、現在は神奈川大学教授で国際ビジネス・コミュニケーション等を教えている。英語の著書も多数ある橋本教授が考える社会人にとって「望ましい英語」とは、「上記三つを基本目標にすべきであり、言葉に対する敏感さが必要。英米人が書くような表現である必要はないが、間違いだらけではダメ。会社のレベルまで疑われる。次は多彩な表現を身に付けること」としている。「ビジネスの成功は相手の心を引き寄せる英語力がもたらす」とも言う。編者のもう一人の前田秀夫氏は神奈川大学の英語教員であり、利用者の信頼感は一段と増大する。